周 易 傳 義 補 疑

我们我不在一个人之情多也幽对於神明而生著了好人在大人在大人在大人在大人在大人在大人的人们是我们的一个人的人们是我们的一个人们是我们的人们是我们是我们的人们是我们是我们是我们的人们是我们是我们是我们的人们 这年四著在城山城内部内 孙史男后我有一好人 二四二人又言有養後 ら 直下二甲和三五百五 周易傳養補疑人丁二卷 周易傳義補疑卷之十二 按生著言生出供著法來以求卦謂天生著以助聖人 具氏澄日說卦者備載卦位卦德卦象之說盖自昔有 以為傳爾首章次章則夫子總說聖人作易大意以為 其說意者如八索之書所載有若此者而夫子筆削之 說卦傳 後學丹陽姜 質察註—門人 • 晋江潘維岳 梁山古之賢 ---同校

学名其世由我已至人人 ロをからあのなりはし 古尽名力丁灰国三春日 数言是说著数奏面二 · 要不不思之的一多天雨地而倚敦 中、名名不雨しな著る 古七天三五的冬日人我二 花州弘が用る半ちのあけ 記三し以内蔵の用を全日 ~数色传说著修五~ 中公雨石工图出代了 オナスをある我やなん でおあるてぶる一ちい 其說日天地之正數不過一二三四五而已六七八九 筮占之 用者非也謂有著而後 畫卦者亦非也程明道 從其類也參者三之也兩者兩之也參天者天一天三 按参天兩地之說惟俞琰氏為得之今取而全載於左 說是 為七則一地而一天矣一三四為八一二五為八則 十乃其配也倚者相依傍之謂天數倚天地數倚地各 天五也兩地者地二地四也倚者一三五相倚而為九 二四相倚而為六也七八亦從此出但二五為七三四

南易傳義補放大十二卷 策為四九三十六冬之則三其十二也九變皆三畫之 之兩之則乾策六千九百十二者三其二千三百四也 之為七十二者二至於三百八十四爻之策数悉皆念 陰兩之則二其三也二三為六則其過棋之策為四六 皆三畫之陽冬之則三其三也三三為九則其過楪之 **苛相倚而成一畫之陽三偶相倚而成一畫之陰九變** 六参之為七十二者三坤六爻之策一百四十有四两 数其所謂参兩實本于此是故著法三變之末其餘三 地而二天美皆不得謂之參天兩地也聖人用著以起 二十四兩之則二其十二也乾六爻之策二百一十有

岩方文美艺艺 知波がかれれのまから おあびところるえかず 在 者れる かれる 水水小差 年信を私いな住せるれたて る力をお作力とななる人 次打刀旅を BOX しおえか **化云三旬俱坐存 全玩不喜** 在一子多品者其在一觀變於陰陽而立計發揮於刚柔而生文和順於道德而 之策也但七八不可以參兩故不言也何謂七八不可 易之二篇止言九六之策不言七八之策七八亦乾坤 坤策四千六百八者二其二千三百四也是故孔子於 也說者但知七八少陽少陰不變故不用而不知七八 十四爻之策莫不皆然盖唯九六則可参两七八則不 不可得而多兩也其餘過拱之策與六久之策三百八 可参兩故易之三百八十四爻唯言九六而不言七八 以參兩七則兩其二而一其三八則兩其三而一其二 不可参言故亦不用也

すとそわ中の主の生もの考 後いからあがる みせしり およするいる私或る 多人 在被言己乃和大具为好九 しまな人えらやおみな 見おれてなるましみむ 多型人内で、家し天の大ちの 招岸舍四数死前矣去浴室 上部以本的信長近因在 田であしたら表の子の大 死主矣父将任己而大四人 と及体の芝生不中人間男事我前是 八十二六 るか四をはしまられ、あるか 五层美元在城市(を)理於義躬理盡性以至於命 不何丘服等不但五彩如 人知艺作之 人作易之極功也從容二字似未妥故剛去之〇介琰 爻〇蔡氏曰陰陽即所以為爻矣此復言發揮於剛柔· 本義和順而無所母逆統言之也理問隨事得其係理 於陰陽而立計剛柔質也重而為六畫則分散剛柔於 氏曰除陽氣也就除陽二氣之變而立八卦故曰觀變 析言之也窮天下之理盡人物之性而合於天道此聖 六十四卦而生三百八十四爻故曰發揮於剛柔而生 而生及者盖未入用謂之除防己入用則謂之剛柔未 入用故止曰觀己入用故曰發揮O俞琰氏又曰和不

日本を云介生処如 ちる! 現之方当是尽是因我春 七大子からて今年な月今 出的西部平安一七位江江 况至于人物四世程以上· 于己世是正公子本处在于之 そし下面是防治之し和灰 九日是与说的上面是就会 生る日下版白生代以前宣 る年しかなるや 会をあけているかられる いまからなってしらればる 町の美ラをおんきまであ 在限るるこれ人はくのは 是位二丁不品加了不過故 もえで矣 第諸家借以論人爾 垂也順不逆也理折之而有係理也和順於道應統言 俞琰氏曰先之著次言數次言立卦生爻此聖人作易 性謂盡人物之性至命謂合於天道此本論易非論人 其德文之潜見躍飛則其義也窮理謂窮天下之理蓝 颇得之然亦未盡安故為酌定之如左聖人之作易也 功〇按此章之說葉良城全欠妥故不取胡氏炳文說 乙本卦久具然後言道德義理性命此聖人作易之極 一卦之體理於義析言六文之用如乾為天道而健為 右第一章

考えて 不多時為不然也沒是一陰與陽氣立地之道日柔與剛質立人之道日仁與義並 此行,沒見知了以一,昔者聖人之作易也將以順性命之理是以立天之道曰 不知有以至人不以已是 だててしたちゃくかからん 与き気かの至 大不知之面中沒又 产生利,待我生艾九以此工 一名不作英俊艺不知人 在陽前東京東心之一十而兩之故易六畫而成計統言之分除分陽迭用杂 上之名对方代方面大文地 現るかの美工式が分立ち あべいガアや 今かだしれ 安本のた、多面好不处外 六次丁拉出 为是在一位 事女がなべらか月 好る月出 周多件表情疑べ十七天 豈心思智慮之所為哉 至是與天命為一矣天命自然而然然則聖人之易亦 序以此窮天地之理以此盡人物之性聖人作易之功 和順之而一无所逆於六爻之義則係理之而各有其 剛柔於六十四卦而生三百八十四爻於著卦之德則 六以起數於是觀陰陽之變而立八卦重為六畫分散 **经替於神明而生出拌蓄水引之法冬天雨地而依九** Q97

は善しはのであるいとを のてかいまったくさいある 代えいからの見かのみ な男性者-程在日南、か いえる水で養三すのの てるりは人となるだり 即からずし徒はなる方を からはあるがー 处有主然用上小作品尚 るのは光いあるをあれ 一川か四人となるでが月 方女な四月かてい他のや しならをこさいでかかな 色也主言 三目日足性症 国际与我在一个王古不 名 名以收的了些例故易六位而成章分言之 化好是一种与工具一日全 本義無三才而兩之怨言六盡又細分之則陰陽之位 道則日柔與刚立人之道則曰仁與義其問皆者一與 立偏於一非道也是故立天之道則日門兵陽立地之 間雜而成文章也〇介琰氏曰前章云立計謂八針也 二爻為地道之桑剛中二爻為人道之仁義道非兩不 六畫則天地人之道各兩而上二爻為天道之陰陽下 三畫之卦象三才六畫之卦則兩其三才也方其三畫 此云無三才而兩之故易六畫而成卦謂六十四卦也 而未重也下一畫為地中一畫為人上一畫為天重為

ワーろあるいはかはか ゆるとれかあしいか はおりれくか全国を **又生易买人司神町山坑** 明ましたで名が具ちと 万州東七八一端大松 がかれの名の斯人化也性 いまんだれるところ て色三才ら色標石は 四分十八 是少事三九 チェンはやる人なな水人 **あしれてれなったいる** 作したが石い水中であ 及按押之意以發首 面点屋改办以至下校 字盖天地人之道各兩而其所謂兩者要皆相與為用 盖不可舉一而發一也係解傳亦言三才之道矣彼以 易立三才之道故先言天地後言人分陰分陽迭用剛 試以一卦觀之初三五為陽位者三二四上為陰位者 柔故易六位而成章謂伏義畫卦之始不過一隂一 謂易有三才之道故以上中下次序而言此謂聖人作 人道居天地之中此則以人道居天地之後何也曰彼 十二為六十四於是剛柔交錯而有文六位自然成章 而已自一陰一陽上各生一陰一陽則分一為二又分 二為四分四為八分八為十六分十六為三十二分三 陟

いなるないま人ののという おおいいこましきない 从我个三座三·市技也 在改与完为以言之其中出 かえれるものあるいかと 一处臣を山大住外世世 作のなな分けと用まり 体が根はありれるかで そろのたいてきから こり矢 おいなすなを工去月上 以れてなるるでしる 亡在かみ用か為英用の MOL·俊相全区用至雨 これの以代 それるこま へかかしくがあてこまして モハーラハドニオイを大 葉良珮曰自第二章至第四章皆說先天之易此章推 拱著求卦分陰陽用剛柔以断言凶而成亹亹則仁義 选〇上言仁義下文不復及之豈不以使斯人皆得以 三陰陽各半故謂之分位之陽者剛居之柔亦居之位 之陰者奈居之剛亦居之或剛或桑更相為用故謂之 防而立地道以柔剛而立人道以仁義而立斯質性命 論立計用爻之義云且伏羲氏仰觀俯察見天道以陰 之道固在其中欺 右第二章 理也乃聖人則立卦以象之以上二書象天之陰陽

凌大美偏布的异 とからは三手を己のら あるおはなる全人 更倩面个都是人 いというましてる人 字 具不死視到卦座上 呈扮出李马玩性伊丁 必然的行便代年至100 周易俸養補疑 个二老 之故易必六畫而成卦原始要終見六位之有陰陽六 之大業藏諸用以成日新之盛德吾人與天地同而三 除為不當位亦有以桑剛之久互居陰陽之位為剛桑 之或以柔居陰以剛居勝為當位或以柔居陽以剛居 分初三五為陽位二四上為陰位迭用桑刚之交以居 文之有剛柔斯實性命之情也乃聖人則因文以效之 才性命心理靡有不順者矣文王周公之觀象繁辟也 得中者故易必六位而成章卦列置為六十四凡以立 中二畫象人之仁義下二畫象地之系剛無三才而兩

苏符品的是我中时次離八年相交错而成六十四卦 诗与有色的意图上的 不然為我當四天地定位乾坤山澤通氣見完雷風相薄震異水火不相 我不受了孙力区大大灰名! 下部位生产生任子节! 是一来名丁三年中本代 ゆるとすしはラスをか なのけらし、あるころわ 女子人唱如品族名於南 百解的文本着 医蛋白 がかるまれれる面下点 ダー中かいるはてしれ 也需你小人使八和四月十八 存在了是五 て伊山学展いるるかける 一的由出去指了外水 平學易者第深求諸先天,之,却,及則思過半矣 為雨山之泉脉通於澤為泉為水〇雷從地而起風自 亦不過發明伏義氏之藴而已豈有出其範圍之外者 本義都子曰此伏義八卦之位乾南坤北離東坎西允 地澤連接於天通乎天地之魚也澤無之通於山為雲 居東南震居東北異居西南民居西北於是八卦相交 而成六十四卦所謂先天之學也〇具氏日山根看於 天而行互相衝激〇次離分泉西一左一右而不相侵

好看几公年八四百科四公 おおおおおろろへ 我的安全对小行名者 好的八十九次 かかあして それなの 四种谓次平在二张公外 八朴大孩白文佛多形字 南易即我浦是一八十二卷 對而立盖乾兒震離屬陽異次艮坤屬陰悉以陰陽相 克又云水火下然上沸而不相减息心按此八 烈雷得風而迅雷風相簿而相為用故震居東北吳居 往來相通故民居西北兒居東南上下斜對風得雷而 配如此〇不言卦而言物非物無以見相與變化之 坤北上下正相對山通澤之氣深通山之氣山澤之 也 西南上下 西而横對則不相犯也八卦相錯謂八卦列於八 〇俞琰氏曰天上地下一高一早此定位也故乾南 相對水火本 **陰計一陽二陰對二** 燥 濕而相害者也今 陽三陰對三陽而有 八物皆相

着日右,四左かの変動日上 が大や水の左祖左の子 いのはここはか 生なえるまつるかろう 他任体中去出中我被到 M大了原之看了中起的人 好方的なると考送区 かなぎらなれから かなー カナキセガーをである 下:四股台下上しつ至日左 杨月代のかってるでうとう 電界中なる松平 中空新授我是數往者順知來者逆是故易逆數也是如老在本意不好手之 不明有至を変すっちり 統陰皆進而得未生之卦猶自今日而逆計來日也易 本義起震而歷兒以至於乾圓圖之左方自一陽之後 生之封猶自今日而追數昨日也自異而歷坎艮以至 於坤自一陰之始起夏至節歷艮兒問為狄分至中為 起冬至節歷離震問為春分至乾為絕陽皆退而得已 交相錯雜之象 圓圖之右方而已故皆逆數也口俞琰氏曰數往者順 之生卦則以乾兒離震異次艮坤為次如横圖之序與 知來者逆觀先天圖可見橫圖以左往右為順自右來 一花沿室四周云花中我白美女万子出

はみなかるれしられる 如初设好易在地西上社 水の養好子は成不知作命! マがはロマルジのうかなわれら 九次かかな天子からな 命一定是不知性可隐女 うの中かったることかられらか で名をむしらとうていか 見のからちかれるないの かかい カシナニいっといっちゅう 君大文者を以不改以 股母独转无常是加美高 西北京出下的股科与大田 在工艺的末日送去是五 するゆうかせいつこかのかへ かかかのかあられて 子性 用はしたダインスをなれる 周易傳表補徒八十二本 之謂也〇胡氏炳文曰數往者順一段指圓圖而言卦 氣之所以行易逆數一段指横圖而言計畫之所以生 易逆數也如所謂占事知來物所謂以前民用皆逆数 從中起故自震而往歷離兒至乾則順自異而來歷次 謂先天之學哉若休圓圖象渾天之形則乾坤相並寒 非本義依邵子之說而有以發其蘊則學者就知此所 七數至坤八亦逆也或曰易之筮占專為知來設故曰 左為逆圓圖以自比往南為順自南來北為逆二圖皆 艮至坤則逆來往既以逆順言而獨以逆數言易何也 曰自乾一兒二離三数至震四逆也又自異五坎六良

不言母人以下以九切及止 おは出度けしあせ 17大程み本万数/主田と 至色七年人里在多大意思 いなさかあるあすれてれ 也成功之上方件一方大小山田 方名だすおべいってり有 文前 中我一个大大大大大大小的之風以散之動則物萌散則物具此生物之功雨 金田ののよういていらず 以潤之日以暄之潤則物兹暄則物舒此長物之功良以 之坤以蔵之君則物有所歸我則物有所息此藏物之功 止之兒以說之止則物成說則物逐此收物之功乾以君 暑不分矣此所以有取於橫圖也 言六子之相為用言天地之用六子也此章先言六子 本義此封位相對與上章同〇潘氏夢術曰上章先之! 以乾坤此章終之以乾坤盖上章先言天地之无為後)職後言乾坤之道言六子非乾坤則无以主之藏之 右第三章

好事生民公工部の子の 使はを考えれる気は都区 あたるとお付存を追えれか 用いますもはしずる元々なる人 等死知電天出处方候且公 かりなせくておれい見えた ナルリンのばみりし か月名もの 吹を式がせ込んな面はてしるる どおきまや 長と以て私住言一里明れか からないというとんうすがかつ かなくらいはあれてきか 用か男子を北南司不用は 同あり我前近 ヤナニを 異也雨潤日暄乾坤中爻相易而為坎離也止之說之 卦言〇丘氏行可曰雷動風散乾坤初久相易而為震 象義多故以象言艮以止之以下四句取卦義多故以 乾坤終之○胡氏炳文曰自動至暄物之出機自止至 乾坤終及相易而為良兒也此六子生物之序也六子 致用主於乾而動歸於坤而藏此又父母之功也故以 質之具也故以卦言〇前琰氏曰此章先言六子而以 藏物之入機出无於有氣之行也故以象言入有於无 流行生長收藏之事〇朱子曰雷以動之以下四句取 也〇蔡氏曰上章言卦象自相為用此章言八卦造物

四大枝不大文文云で門かなる」 中食もしなったとうかくそやし 加龙女女 動力出之出五十定 宜我由生子此相不敢多多 片下為為 不犯方住我 市合 「海がはころですする」で、交替予次は久成言手民北京本本之交 を変や ですむなかってかってな 以外色で、ならる気を一帝出乎震東春亭野、東南春夏之交相見于離南夏文本子安京本帝であるとうまで、南京四章では、東南春夏之交相見于離南夏文本子安京であるというである。 てかえしなとよてこせで 存むてきなりを方ろう 化化りて石石说笑不多对 大八年一在公一英一年五 ゆる様母の幸一なだの さえすかか変か出るがか 全人代布员名与重罗了丛 ンをまる一大松谷二つつい 役手坤世四有夏秋之交說言手兒西秋戰手克西北扶冬 本義帝者天之主字即子曰此卦位乃文王所定所謂 之道也 後天之學也〇出者發露之謂齊畢注之謂相見物形 乾坤居終盖終而復始則生生不息造化无窮此乃易 明盛而皆相見致猶委也委役於萬物无不養也說者 物形至此充足而說也戰者防氣始前除疑而戰也劳 一伊はいつきたからえかのて まむは太人を存らられがれた

生的最大多年面而聽天下衙明而治盖取諸此也坤也者地也萬物皆一下一等日本者经夢起面而聽天下衙明而治盖取諸此也坤也者地也萬物皆 你都想不完成人然齊也離也者明也萬物皆相見南方之卦也聖人南是最大人人多好 当かばしなるひ 李第元等學等一致養馬故曰致役乎申兒正秋也萬物之所說也故曰說 (差十五十年日本人)萬物出乎震震東方也亦手野果中也所也者言萬物 生的白旗至了中省版的 みしなりではらかちまね 七三次四百十名分了八十 21歳~本代七矢比で出处し 力定公式で分れて 多人であれては子気 いてかんががなりはつかいました 仏体生世後力但是我主 できなう歌もながらち 好去了公包很好吃办 て作る此外にてわらる行法 力能すれ往子中るか花屋工 をあまするやかとあ 盖兒即說之謂艮即成之謂也 東北而知之也〇俞琰氏曰他卦不稱言而兌艮稱言 成終而成始也〇胡氏炳文曰此節言萬物生成之序 卦位為文王所定盖以柔辭坤西南得朋蹇不利艮之 然孰生孰成之必有為之主宰者故謂之帝邵子以此 者萬物收藏於內而休息也成言者陽氣至此物之所 が大き

我女工口好为好车四七说中 要求的教育之族人為此之其也萬物之所成終而成始也故曰成言手艮八卦为前者多考望 工工时两人多人的 也萬物之所歸也故曰劳手次艮東此者主道接對為其正北方之卦也勞卦也萬物之所歸也故曰勞手次艮東 先不三日のかえ口行女万公送 ゆいるる方物ではあるるの 大杯表积此女在此人下人 方、朴之相えち依色協放 大なからいれてなりいろうます 是他是我的母母等多地是於一歲之造化者如此 は命各見者はよからしま 中で一字三巻「王丁元致五十二 高利益は大学徒 言乎兒戰乎乾乾西北之小也言陰陽相薄也坎者水也 於西南也盖春獨木夏獨火夏而秋火克金者也火金 時可推以互見也坤於方獨不言西南坤土之用不止 本義上言帝此言萬物之隨一系流行之渐帝以出入 以物言焉○胡氏炳文曰離明以德言八卦之德可推 坤地坎水以聚言八卦之象可推免秋以時言八卦之 也〇蔡氏淵曰帝之出入不可見而為物者可見故又

見る付表打数一二二元

かなかとかまりしめかな 考知れ指不子力歌人 おの後は多る者因的 ンスコルンをきしたちち おれてはやかちできる そので云れるとな中代な 于物化 的在考生的他都是 七百七五五八七分九 なったるかろの外日見 化のちならなのれずり 任人ないがかうなだい るのもかろろかなるか 中岛孙文 おおなりつめら田しませ 存後小思子は理とある 為秋之克木土逆以相克所以為春之生生生死免變化 者各居正位者也震獨木野亦獨木震防木也異除木 水克土土克水生者又逆以相克土金順以相生所以 用也得乾坤之中氣故離火居南坎水居比也震動也 乾陽金也故乾居西北亥之方也坤艮皆土也坤陰土 無窮孰主宰之曰帝是也〇徐氏幾曰坎離天地之大 物生之初也故居東冗說也物成之後也故居西此四 也故巽居東南已之位也兒獨金乾亦獨金兒陰金也 屬金冬屬水冬而春水生木者也水土之交有民土病 之交有坤土焉則火生土土生金克者又順以相生秋

本有る上外からみれる つやちたんりのかん 年はるとテカコのもん 展的光冬一年日本大土全在 やう長むし去る中土かよ 出版日本中央、ころは方 不悦(計)必合一不在春 の子者しんでる冬ろう 夏田学长五十七七 あれる 老你放成乃主政外为无 ろがかは 且以子かいしのか 名王泉 本西田山田白 出一四其实人事在各一 し外ないみかしおんえれ ど年はきテヤる西の 水小移列九端や光万孝 しまいしからまかめれるは 唐房傳兼祥教 一十二名 於帝言致役者盖坤臣也帝君也君之於臣役之而已 為次者震異、對木木生火故隸次之離火生土故坤次 艮陽土也坤居西南艮居東北者所以均旺乎四時也 於萬物言致養者盖坤母也萬物子也母之於子養之 而已 用五行之生循環无窮此所以為造化流行之序也坤 之坤土生金故兒乾次之金生水故坎次之水非土亦 不能以生木故艮次之水土又生木木又生火八卦之 四者分居四隅者也後天八卦以震其離坤兒乾坎艮 右第五章

君子梅面找 六子之才各有所長於言六子之情各有所合 又下一方物是好地與建雷風不相悖山澤通氣然後能變化既成萬物也始言 在第15万年在15万种也者妙萬物而為言者也動萬物者莫疾乎雷挠萬物 堂是灰山ではつる大! きなね あるの用かかっか 次れてきのるとなている 大工主改の事分の名! 方於各山北京以於·本 是我們我中思之萬物者莫潤乎水終萬物始萬物者莫盛乎民故水火相 不多人 ておおしのあえて され けんれとて 益上ないちょうなのか!! ナモリしかがれるりいえな 二章未可知也 雙湖胡氏謂帝出乎震至成言乎艮八句疑是八封圓 圖之題目萬物出乎震皆是解說或如朱子論天一 天此第六章則由後天而推先天者也去乾坤而專言 胡氏炳文曰以上第三章第四章言先天第五章言後!

布魯教 大说世里我 度又なるるなべるな 成出等物人加石许多旅 为的之非传以社友在古代 好し门れきなしあると おてぬや住事にする 九中ちょうしてれずる えかかなるの月水のス全二 君本九中代和古人 于乳神元乳神上年大学 元けんろて上北て、西大区 存有しか上頭は気がいて 海水方のおかゆるので ち用ふけな正ろかは云 をだしん労 おける風中ありし私父の があかること 居名傳养排於 八十二名 之妙如此然後變化之妙亦如此〇徐氏幾日伏義八 之所以變化者實由先天而來先天水火相遠以次陰 六子以見神之所為言神則乾坤在其中美雷之所動! 風之所以挽以至艮之所以終始皆神之為也然後天 流行之用而言對待非流行則不能變化流行非對待 陽之交合後天雷動風挽以次五行之變化惟其交合 禁良珮曰此章合先天後天之體用而言以終第四章 卦方位主造化對待之體而言文王八卦方位主造化 則不能自行 右第六章以子表口上自在一部的了公民上路的在居大面目至是在

面遊晚河中移在死壁由北 代をする白田田申しは思 日を小はするめかしかと 二次程件按于七两次 者莫說予澤物皆利逐於時為秋潤萬物者莫潤乎水 之交帰萬物者臭其十火物皆相見於特為夏說萬物 於時為春挠萬物者莫疾乎風物之深於於時為春夏 以成變化之功耳是故動萬物者莫疾升雷物之始生 之義夫神者乾坤之妙用也合則為一分則為萬故曰 妙萬物而為言者也且乾坤不測之神要皆任使六子

南見得我補疑 人十三年 得離則物无以相見離不得坎則物无以歸藏雷風惟

然而用必有體是以水火惟不相射而相送也故坎不

有始於時為冬春之交此以流行之卦氣言易之用也

物皆歸蔵於特為冬終萬物始萬物者莫盛乎民終則

作品的第四人次与行为以为二 美物本表方作のまたの初記也 高面展東京教艺·乾健也坤順也震動也異入也次陷也離歷也民止也免 中在不からかる一種田がる村 おるまる健神はれかあり に記事を上記 あいけかあ 世等其言性作表刊之本 外之 日月初子上の上之 八九十七日何年の一日の方 本義此言八卦之性情〇蔡氏淵曰乾紀陽剛故健坤 諸天地之撰无不昭合學易君子其可不究心乎 此然後天地能變化以生成萬物也以吾心之鬼神揆 對待之卦位言易之體也夫先天後天之相為體用如 兵則物无以深齊山澤惟相接而通氣也故良不得**免** 統陰桑故順震坎艮陽計陽生乎二陰之下則剛而進 則物无由利逐兒不得艮則物无以成終而成始此以 相薄而不相悖也故其不得震則物无以萌動震不得

ステナが从是の日かか

南多字義消於一次分之本 盖皆順之獨也健則能動順則能入此震異所以為動 當以此八 德求之若一 為止為說也其他近取諸身遠取諸物名件雖不一 為入也健遇順則陷順遇健則麗此次離所以為陷 故動在二陰之中則剛為陰所別故陷出二陰之 魔也健者能動則能止順者能入則能說此民兒所以 府其止盖皆徒之屬也異離兒皆陰卦其入其題其說 上以順而見故說〇俞琰氏曰震坎艮皆陽卦其動其 以順而伏故入在二陽之中以順而附故題在二陽人 **刚則亦无所往矣故止異離兒陰卦陰成乎二陰之** 細碎牵合附曾則失之鑿而 -[7] 占

七世面大子子的 記為馬能而行不息中馬牛順而勝載震為龍動蟄皆與 ままらんしかなまるあうるで 18男大台中的男女局而中心剛堪離為维前後皆陽之文明而中心奈性艮 中年の月これをのからびる 季日 高美面至 南俱是為難知時善應性馬入伏次為豕前後皆陰之污傷的高美面至 松字 群奉分本大傅念 生であるではあせれ代は 展中艺术方及及教 外剛能止物而內來媚兒為羊外來能悅草而內剛 かかれれるようる とからべつけもするない 狠 其性情如此象者其似性情者其真也 鄙矣〇胡氏炳义曰夫于於下文言八卦之象故先言 本義這取諸物如此此以動類之八物擬八卦也 右第八章 右第七章

等在我的在考虑一年天也故稱于父坤地也故稱于母震一索而得男故謂 とかられか 学是我的母子的人的 用民為手剛止於上光為口兒院兩訴於上 ·養知·養品與另一人少男兒三索而得女故謂之少女 日上水田之長刊がは一先次 我也就是多多。到人長男巽一索而得女故謂之長女坎再索而得男故謂 七七を中式用中一見を 在我是我過日百年人 住主院次為耳耳輪內陷陽在內而聽能為目目情所外 大人中有度500日日本一震為足陽動於下異為股股险足而異陰兩關於下為股水獨知的数四日日本中震為足陽動於下異為股股险足而異陰兩關於下為股 在主死等人等推之中男離再索而得女故謂之中女民三索而得男故謂 五听道去同大学正不日子外 女刑的九二的之一面一面見 安京大学中型村只有草的首首自諸陽等而在上中高腹腹藏諸陰大而容物等在其前在于其後的 りりなりを 本義近取諸身如此 右第九章

乾坤六子初為氣末為形中為精雷風氣也山澤形也 未然朱子固告言不當事作標者若標着有不依這序卦初畫時即有此象也〇按撰者求文為索本義說恐 水火精也 **時便說不通美大縣只是乾求於坤而得震坎艮坤求** 胡氏炳文曰卦畫已成之後方見有父母男女之象非 本義云云即晦翁亦書自以為不然矣〇項氏安世曰 於乾而得異離兒一二三者以其畫之次序言也然則 介琰氏曰乾純陽象天坤純陰象地六子皆自乾坤而 右第十章

周易得最前於 一个二条 言六子皆生於乾坤如此〇葉及珮曰此章說文王八 除先求陽則除入陽中而為女曰一索再索三索盖以 中而得雅則謂之中女交於乾之末而得兒則謂之少 中男交於坤之末而得及則謂之少男異離兒皆乾體 相謂不敢同於尊之詞也此章以家之八位擬八卦又 三畫自下而上之次序言稱者為之之詞謂者酒彼此 女索者陰陽之相求也陽先求陰則陽入陰中而為男 坤之除來交於乾之初而得異則謂之長女交於乾之 之初而得震則謂之長男交於坤之中而得次則謂之 生故乾稱父坤稱母震坎民皆坤體乾之陽來交於坤

かのいおるめいなかる大人 公内を弁多地元 いかべてなるのれるて

為用而萬物生故曰水火相逮雷風不相停山澤通氣 之次序也以乾之三奇為父坤之三偶為母陰陽相求 生四象四象生八卦八貞卦後生八悔卦此伏義八 卦之次序而卦象具馬亦卦變之凡例也乾坤以六子 泰或為小過若六爻俱變則乾儿群龍无首變而為坤 而生六子共為八卦又以重卦之及對陰陽相交序為 然後能變化既成萬物也何以謂卦變之几例曰兩儀 逐坤為震或為臨若三爻變則乾為否或為中手坤為 六十四卦此文王易卦之次序也以卦變言之若乾卦 **文變則乾為姑而坤為復若兩文變則乾為異或為**

茅品松气 中度の対なしが、う上程し最 石間心の形を飲るむと 朱宝花等第一位最 夫なの君拜 あか至ら在事化かる在 在學与多必有小美史 問易等院前是 八十二氏 大為亂成則名為往該初生為該長大為蘆成則名為 馬之馬足超起為作震動於下故為馬之作足的 為聲上畫偶口開出聲也馬左足白曰馬震居左故為 常皆下本實而上幹虚故取以為震象善鳴者陽在內 土土上升而穀之隆也則又及而生於土馬以陽實在 中動於末再三動而不已則為躁若深青色青為東万 白也異為白又為廣熱震變而為異故為的額之馬即 本色筤竹之美者盖筠也生於春者也就初生為炎長 詩所為白顛傳所謂的顧盖馬之白額者也稼始生於 坤而得為長子决指防畫學指陰畫動於初為決動於

灰手茶の良馬はそかな形 西を秋の水冬の歌 英は不少男 北至るの大古 での水スなるているがな 交視明石金、あ四十七年日 西西公美門在河东南南外多 行のれるれかはわれるを 格力を提品引生をあるる 女子相尽米女仍 之友的好七 **珲马历圣** 在中国日本工作有分文艺 かは出のかぞるおかせをひか 在は3市の田田の後の森 馬力等好為夫馬粉衣名 民品学旅りでみませるあ 北極高之地其位獨多故為寒水水者寒之疑也在冬 為寒為水在夏為大赤又坎中陽為赤乾純陽為大赤 大赤盛陽之色也良馬謂純陽健之最善者也老馬謂 體而運轉不息故為園等而居上君之家也萬物資之 虎豹此駁乃别為一物非易之駁馬 也圓而在上為大 駁馬謂紀 極而駁生者此不但色不統而駁性亦不統 **光陽健之最义者也亦馬多骨少肉健之最堅强者也** 以始父之象也粹而不雜為王刚而能變為金乾居西 天積陽居上乾三畫紙陽故為天物體圓者常動乾陽 而駁健之有威力而最難控御者也或以為銘才能食

バイ ますま アニーラ

住死本日日中百四石之数十二 有一見力程一本為古成形有 至的教容教徒之一文為衆為柄其於地也為黑 るかのかからかめった 食生本四年高七年中央也 やけかないらかしそれろ 中原一般七柄やうな子也! されれるからい 積除在下為地物資以生為母泉貨為布盖取廣布之 為此 化坤所以為釜以為虚而容物者似非静翕而不施為 坤為布之布非此也釜所以化生物為熟物者乾生坤 義乾之所至坤亦至焉故為布布足之布後來時俗字 易其為龍為直等象不必從他對做此〇按廣八卦之 **象諸家說多不一特為取其當者然録之不言其氏說** 果有九家盖後漢首群為主集九名家易傳謂之九師

第一章多名是是 防動於陰之下為雷得乾初書為玄得坤中上二畫為 种教室的母生物一大 歌的學出於在人人教也為及生其究為番解 されも下らかかすてる久保一 我抄上切了走了我也有 「大力は死をえかれ 葵蕾等等看一行為在常其於馬也為善鳴為馬足為作足為的額其於 是古度本是 震為雷為龍馬玄黃為男為大全為長子為決躁為答良 至多此物,有于如上文教 ·養母等人養養 子母牛方而能載為與與而言大盖坤陰本小以其載 四本的中文美州氣的枝和面! 是多為我們多言意 苗專當作數與華同花帶下連而上分為数出之義也 お存在はか長山の子れか 不多日本井井 ノニス 各嗇於物不擇善惡而普生馬為均性順而能生生為 偶畫多為衆有形可執為柄黑者極陰之色也陽所以為大也畫偶為文又物生於地至雜而文為文 帝出乎震之象也二偶開通前無壅塞為大途乾一索

教えて生の全布液状立 27年今中七月日1日 少女(书·尽心五张有 中ましなりまえる文子校子 金をみたあるろごがんだ またなせてもるこれやや 沙犬を徒れの野生の時では うる男生な神社母与うる がきなし 有えせるです かなるなるからは作か てびるされためを父子 こばてれしば他をむるか アガスもなることでない 馬為老馬為齊馬為駁馬為木果 乾為天為國為君為父為王為金為寒為水為大赤為良 長女為中女為少女諸明文可證盖與第八九章同例 長女中女少女諸象况廣卦象有為父為母為長子為 弟之義也故盛之六爻皆以父母取象而師之六五日 久毋曰長男長女中男中女少男少女實一家父子兄 義也乃若卦象以遠取諾物近取諸身例之則此章曰 長于師師至於成恒段革之录傳則有長男中男少男 坤利永貞變而為乾或於之卦取占此又及對互變之 ブナ

LAが用む不全ラA以 お品信品所度用事生人 為不果為臭其於人也為家髮為廣類為多白眼為近利 其為木為風為長女為絕直為工為白為長為高為進退 市三倍其完為躁卦 震所以為番鮮也 震之為教也變異則為草震之為龍也變異則為魚此 為異震居東得木之正氣異居東南得木之餘氣是故 異入也物之善入者莫如木故无土不生氣之善入者 莫如風故无物不被坤一索乾而得異為長女木曰曲 而不已則其完為乾之健番草也解創也震三爻俱變 下動而上行故也亦生生不窮之妙也究終竟也陽長 周易傳義補疑人十二卷 草木之枯謝故其色白白所以受采亦異入之義也長 直絕者斜木之曲而取直工則引絕之直以制木異德 甚博夫故為近利市三倍震為决躁躁卦即震卦也異 為巽之主而在上二陽皆為其所有則其本小而其利 陽黑為陰異目上白多於下黑故為多白眼 少故為家髮二陽在上如人之額澗故為廣額眼白為 旋乎二陽之下故為不果臭以風而傳陰氣在下盤遊 之制故也異與震及震為草木之初生故其色青其為 如風行而長高如木生而高進退風之性也異一陰盤 而不散為臭髮者血之餘血陰物也異二陽而 一隂在下

第四次高級為為為以病為耳痛為血其為亦其於馬也為美春為或心為 日本古書的東京 住をちつけれるちゃ となる。1915年以為水為溝清為隱伏為橋縣為弓翰其於人也為加夏村以下 1915年 徳寺なる正さるい世月 行在造的多在在大多 三は八日午子五八多大 松絕一多太四面 りをとかるゆいする ひんでいるこかのなん うする 田のをのる人はか 一部一のスラな像で立て がはるか ませるのかい かなをなるまであるち 了時為方人及其一下首為薄蹄為曳其於與也為多青為通為月為盗其於 する且おで マがしおや 木此為堅多心 所以載其下弓輪皆嬌輕之所成也陽陷除中為加憂 使之由也弓盖二十八所以蔽其車之上輪輻三十六 漬陽匿於中為隱伏嬌者矯曲而使之直輕者輕直而 水內明坎之陽在內故為水陽盡為水二陰夾之為溝 三爻俱變則為震故其究為躁卦 心耳皆以虚為體坎中實故為心病為耳痛素問金在

名は富夫以びれ場を八 そのあまかとうかなたれ 以为英四七秋月 的此了 中初的美工一片花里作家 時他のるよりからなる お上八八八日子小佐る九七人 お実養的下るかけれれ はあるがなしたへ はるなるででしかけばない 此るる力不視可は中大日は 一周易傳教補此六十二天 為馬之美春亟急也內剛勁故其心急下首者桑在上 也之下為多青當在為心病之下目病曰青心與目皆 也薄蹄者恭在下也與有曳馬无曳為曳當在其於與 防故不至大赤爾乾為馬坎得乾之中炎而剛在中故 **屬離坎與離相及故在坎為心病為多青其於與也為** 曳為通中實而重為曳然可以濟險故為通即俞琰氏 之在人身者得乾中畫之陽故與乾同色為亦但非純 水勝之故為心病水藏在腎開竅於耳而水在志則恐 志為愛水在為恐恐則甚於愛故為如憂火藏在心坎 恐傷腎故為耳痛坎為水在人身為血血計即本卦水

划去格类 火光軍也等這五一離為火為日為電為中女為甲胄為戈兵其於人也為大 人口內防的明日至大上指古至 股為乾卦為監為雖為嚴為蚌為龜其於木也為科上搞 **胃外堅所以象乾之畫支兵上銳所以象離之性外大** 麗乎雲則見无雲无電也離再索乾而得女為中女甲 者也故離為火為日為電電光乃日之光亦火類然必 就魔也火魔乎木日麗乎天電麗子雲皆有所麗而明 而中虚為大腹火性熯燥為乾卦盖離二陽屬火與乾 所謂得時為通失時則為曳也月外陰內陽坎體同故 剛在中故於木為堅多心 為月剛而善隱伏盗也坎以陽剛匿於陰中故為盗坎

为口言三十分不完一為鼠為默喙之屬其於人也為堅多節 あるうは、切れるさてと、用易傳義補疑一十二卷 力を例至い日本なる 西界教艺四以及一民為山為徑路馬小石為門關為果敢為問寺為指為狗 静以止者山也陽大陰小艮之陽畫為山故陰畫為小 經陽相近謂之乾濕之乾即謂之乾坤之乾可也按雖 乾燥而枯槁爾諸解科為空中者皆未然 濕之乾不係之乾而遂為卦也那以此而知乾卦之即 卦即震卦血卦即本卦之坎卦既謂之卦豈可但謂乾 統陽乾卦无疑也監性静取其中畫之孫蟹性操取其 科果之附於木上者科中歷有離象上稿則科上之木 上下畫之刚嬴取善麗蚌取中虚龜取文明之象科謂

為手所用以止物者在指以陽止於外者狗也以陰止 **清之義二畫雙時而虚故為門關乾純陽但為木果艮** 於內者鼠也點青黑色鳥善以喙止物其喙皆點鳥凡 陰柔在下為疏也周禮閱人掌王宫中門之禁止物之 物之不得出者民刚止於外以衛內之柔故為問寺民 不應入者寺人主永巷掌王之内人及女宫之戒令止 石又刚在坤土之上象山頂高處小石小石即坎水溝 剛也或以狗作豹為熊虎子又或以縣為鈴或又以為 百不可以枚舉故言之獨以統其餘狗鼠點喙皆謂前 陽二陰故爲木之果又爲草之旅盖陽剛在上爲果

なるかしやはでてでして そろろろかはあいて西北 明年春日と、自己人田之五 产作又子上が足びの国を 起一点地 三日本的一台 之五万世又手外也了上少日 以文学しいないで 半けて下かる除二至大香 A 图·文明《大空二七号数 みないこれるれるべかがか 打鱼方水 五家之你以传示 一刚 图為妾為羊 兒為澤為少女為巫為口古為毀折為附次其於地也為 りたるがに一切した。 剛在外也 官以口舌悅人者兒上拆口之象陽動於內舌之象也 澤乃瀦水之地物之潤而見乎外者亦為澤允之陰見 通乎坐者以言悅乎神為巫通乎顯者以言悅乎人為 乎外故為澤坤三索於乾而得女故為少女巫口舌之 於刚刚乃决柔為附決震陽動故決躁兒陰悅故附决 口百當開說為是金氣司殺條枯實落故為毀折桑附 居猛獸齒牙堅利如鐵能食生物者皆未然堅多節

作作作 我们我们 賓者利之末也 兄非能自决乃附於剛而决也水潤極故為剛鹵陽在 馬坤為牛震為龍民為狗兒為羊皆見於象而異雞坎 中女兒為少女皆見於象而中男少男獨不重見乾為 項氏安世日乾為父坤為母震為長子異為長女雅為 之象凡兒象皆屬末口舌者行之末妾婢者女之末念 婦故為妾内很外說故為羊○俞琰氏謂剛鹵亦末作 下為剛陰在上為鹵剛者出金鹵者出鹽少女從姊為 **承離維獨不重出異為躁卦坎為血卦離為乾卦而五** 右第十一章

公司在我也是美国食之道也飲食必有訟故受之以公 はままれておれるとお家也物之释也物释不可不養也故受之以需需者飲 · 等奏な若母され、|有天地然後萬物生馬盈天地之間者唯萬物故受之以 長からるでやる九中主 ゆしちょうなのをあるえての はてかけかってをしょも 」 ぬるなるるはか古木を 沒至無漢句是也也者盈也也者物之始生也物生又蒙故受之以蒙蒙 しにおいいりもはるか マタゆはんのであるをを 又在八十月五石待丁明天 切やまをし州的お花佛 あなるてたるる てたちぬしためればせてた 序主傳日大生の存私、まるれた日本なるとまなべてやるかあるの序的大及 始生精神蔽而未發若蒙冒然故屯後繼以蒙蒙者蒙 問也也者物之始生也謂萬物初生之時如是也物之 稱究盖万相馬例也在智力之不正去一个方式出 卦皆不稱卦震光為健為番鮮異究為躁而六卦皆不 也者盈也謂其氣欝結而未能通畅則克塞乎天地之 ニドフ

·是高光公不能的者、上禮故受之以後我不問の兄中己女子多士成義之陰かし无一周天也不可以的人事情等之意 此不如言於旧本一字五 光孟が年かで、 本田起为路初多天 在至之! 此下在方生色後然及石北比 五香一的九 一のそかあませ 不比けるところのなど 雷又孙使有马女女送一 女徒弟子中在世夜人女美一月一八八十十十年天 一二十十十 以比比者比也比必有所畜故受之以小畜物畜然後有 需不訓飲食謂人之所需於飲食者在養之以中正乃 爭故訟繼需後飲食致於如所謂乾候以愆豕酒生禍 飲食之道也飲食人之所大欲也所需不如所欲則必 之類地目是 此共的我的上发人就放下之 京外居住世界有政政的十二年 之潤益萬物乃萬物之所需飲食之所需乃人之所需 小之時物之稱小者養而後長大故去後繼以需雨澤 也上蒙字卦之名下蒙字物之象也物之稱謂萬物释

が成く 知りなる きいけんてきるいん 孝しがなるしぬかるよぬすと 人物~太话两地对面养的方的 内在公文的处理表記了了 を中であれけてやしまかたな のなかべ 司易要是前是一人一人 歸馬故受之以大有 受之以否物不可以終否故受之以同人與人同者物必 **獨而泰然後安故受之以泰泰者通也物不可以終通故** 履非以禮訓獲也公不多的不分力的好先於我以不好不知的形代 非其大者故比後繼以小畜物畜聚則有大小之别高 下之等而禮在是美故小畜之後繼以發禮盖人之所 以北畜聚也畜有止而聚之義比則必有所畜聚然而 師之興由有爭也争必有衆起謂其必至於動衆也故 下比人之比也聚必有所親附有所依歸故師後繼之 訟後繼之以師此者比也相親附之謂也上比卦之名 1

为去我们其一知事的古知之 けいることのなるあるあみしむ 公国人してないのである かかる子 否塞而上下不交合則乾離相同而上下相親美向也 泰然而安故履次以泰泰者通也謂其通行而无礙也 禮者人所須而行之者也所發惟君子之大道其心斯 **辟難今也同人于野亨利沙大川則疇昔在外辟難之** 道可也否者塞也物不可終否而受以同人向也乾坤 其易于張乃其交會處處此宜知警戒為變化持守之 之以否乾坤十變方泰而泰一變即否泰何其難否何 治亂相仍如環无端物无終通而不塞之理故泰後繼 君子皆相與出而濟難矣大批與否義相及盖物不 不利君子貞今則利君子貞美向也君子在外以儉德

一大大大人

生のはれるかるとろうな ·ちゅる不放反兄此る 5 石户出版了大张文本日人就华庆四节他人为有这个医子界子子公路及文第子子的人名子的人 なるかあいまえるうちかし なるがあるとのなるしまの 学得る方は八千天 なるかれていたにはなまって 村 人主怒一及人女次位还 了不必急 のも方をはかから見る取る一月易得長間にいよこと 必有子考 之四面说会计例 記元不信去下~不見知 そる必出界心上去四人ちど 終否故否後繼以同人善與人同者物必歸之故又繼 满而不溢人皆敬之而无有疾之者矣如此則吾亦得 以安和說樂而豫故謙繼以豫豫者安和說樂之謂也 所有既大不可以有自滿也故受以謙有大而能聽則 同人以大有天有者大者行為吾所有也 安和說樂而无拒人之意則皆欣然願随之矣故豫繼 以隨以善隨人者必有事如子於其父以善悅之道隨

いい阴侵民がですしま 後可親故受之以親移あれるの太出日の私女子人出行不時人也情味的 か美七かるい本大味作 初品やとなるようの大股 路与人で首美の市路大八八八八 子飲此後品を下し五日二 北大子大将如果不上没有引之 やえいた古む石三大ラで 大さしずが少くなしれば大 是舊時至是於此為者事也有事為後可大故受之以歸臨者大也物太然 马次年在四年杜阳十二日 いこれは長あいずなしま 盛また人体がる且子なると!! 度的ホーを大声せきなられ 弊玩 第一十世氏四极分子 ではれるすることはおいるあうているできれるとからいまるとないというできるま 大臨小凡稱臨者皆大者之事也故以大釋之物之小 此者壞也物壞則萬事生矣事因壞而起故以盤為事 治其事之謂也 者在下視之不見不足觀必大而後可以觀故臨次以 之必為之事其事故隨次以盡所謂幹盡云者即所以 之先可大之業每因事以生故次以臨臨者二陽進而 四陰退嚴騎手向於大矣臨不訓大臨者以上臨下以

1

西美元子是一番的一个合而已故受之以黄黄者稀也致飾然後亨則盡矣故受 大是意思的人。可视而後有所合故受之以噬嗑嗑者合也物不可以可 ありかないからいから とだけがなやではかりし 七 光版〇只在少十天好朋友 必んせてる 変えるかん 安遇城居然到安五季 周少男教情徒一十二七 切える世に体情に、黄 便立治也以此去四人行出 超起五九九五九天西一段 是在京中的北京大田村子从州北一大湖播与九江石茶为四等的产学宝山井州东部外在渡京公面的房 中央元なる免金を安か 好 色出此人只为今天人之 以民夷が現分しかか放 以成男女之合實所以次合也實售責於文文的太過 者此噬嗑所以次觀也然而物不可以苟合又在乎貫 剥者此也剥者剥也上剥手名下剥謂物之剥落而盡 則為亨之極亨極則實表故曰致餘亨則盡矣資繼以 在上无可视則在下引而去矣惟可觀然後有來合之 以舒之不執發則不可以成富主之合不受幣則不可 えたと あっかが

以子ろみたる太本 为面的内面 美限品品 为鱼内外班史门通本,六 正是名的女 化日本口言 好为十七年的好事中心 ろんさも子大 走在太中大孩上了了一 灰一色を がり うがぬてかぜ ろか 为养女子拉野吃食云至 前月形四月四五五五大百日 が後的な女女子あり のするがはべなるる。 兵元のギーなが おりたもほみのろだる を言かっないて正ろ 一門必有所麗故受之以離離者歷也出身不名品付于人说 動故受之以大過物不可以終過故受之以坎坎者陷也大畜物畜然後可養故受之以頤願者養也不養則不可 育惟大畜然後可惟以養人故繼大畜以順順者養也 復者反本而復於善者也復於善則合正理而不妄笑! 能物物循理乃可以畜其德而至於大故无妄繼以大 故後繼以无妄前者比而畜其畜也小今惟无妄則自 内剥機以後者此也好於後五大正面五俸主奉云元六號しちであれる子でかない 物不可以終盡也剝窮則上及下一陽目外而來復於三

ある 大年春末向かなり シュナナメアトロ 生人正月 童出品的多多人最有天地然後有萬物有萬物然後有男女有男女然後有一十多多 なめれる ろうからかめけれているないするなりするなりすっちゃりすいる してる山大あるか二大人便天 以成七·私女产子之门多和人 法采 尚未出於奏於 なけられながけるろさや がなるいいてんてない そび至人且以て四メガル不 問さならさる大笑をなる 金川氏においることのは であってくる 母子与及若中京的格,于 百百余八大山 等原金 进民中国八部了 需之養於之小順之養養之大不養則不可動謂無所 易状態以離之深意也不久方をおうよ父母已也去るから月子大學之君在名 以過厚不可以終過也故受之以坎坎者陷也過而不 有大過人者美故順後繼以大過卷過則厚物固不可 後則其體不立不可舉動以應大事惟奏充而動動必 右上語の山あいは田平ででなら成るかこうかる以を指引うころならいれた京水北京大大 離者麗也陷而有所附麗則豈至一於陷乎此聖人作 已將陷溺而不得出失然以次之陽中而節其過則循 可無過故雖陷猶可以有所附属而得出故受之以離

るなるはこれかられませり物不可以終難故受之以解 中方が一年が打電え 中方南桥的等意子人也故受之以恒恒者人也物不可以人居其所故受之矣不去的人多意义人也就受之以恒恒者人也物不可以人居其所故受之矣。 後有上下有上下然後禮我有所錯夫婦之道不可以不 的名字多数以逐逐者退也物不可以終避故受之以大肚物不可以至于50至高字·以逐逐者退也物不可以終避故受之以大肚物不可以 おのなてるるない! 等各完整到班塞 夷者傷也傷於外者必及其家故受之以家人,如道窮必其方的人等好其 るかとなるとでするろうま 安島·養民等望終此故受之以晋晋者進也進必有所傷故受之以明夷 要不不知 第一次是長婦有夫婦然後有父子有父子然後有君臣有君臣然 ルスは大の出る的かほうと 男女夫婦父子君臣上下則成在其中成以無心而感 舒置也一 云極也言天地則乾坤在其中言天地萬物

- 二二十八

地であってれるはかるはん 4名にはあれる人は天山 孤 元 抄答道 正七七星三 七根上来の人たてかかかえ れ以松田はや ガヤ本がってれついるまで 四九一郎一名十四代各位 おおかんけいけいのちこれと! 在安元三里出水平山至 か以上をかるとしい る英人的私はい何的是 おおれたなるにきずれ 竹大品化 女大七七八岁四十 電化 いななやはる 司力事長用走一大二大 以恒物不可义居其所义則當退是乃天之道也故恒 與逐盖相及者也逐於義為退則大比似進矣而難計 為夫婦之義夫婦将以偕老其道不可以不久故成繼 天地之道男女交合而成夫婦故成與恒皆二體而合 說亦是然其義則已縣可見矣天地二物故二卦分為 凡此對待者皆是也或以天地與威无所受故不之及 止之理既盛比則必進也故繼大壯以晋晋者進也進 之間退而方止止而未進者也大壯則止物无壯而終 繼以逐逐者退也物不可以終退故逐後繼以大壯壯 日大壯則止何也盖大壯在逐之後皆之前介乎進退

級多段已存得不完致強人 成するこれまったるるい 大百万万百十年五百 あたられき 山宮こまり 好る野口文字で文子-永太 发展是在人工以益益而不已必决故受之以夹夹者决也决必有所是是是是是是 解者緩也緩必有所失故受之以損損而不已必益故受 はしまれかかりとかなる人 大人居的教在香港改造後 人ななならかきする大力 手推改四雙七 日養養養意思是過故受之以始始者過也物相遇而後聚故受之以萃萃字為養養 正・グスーし、 意思是 KB 可提 者聚也聚而上者調之升故受之以升自此之外俱至此多五元 見れる女性が子の色 ノーイーカー・フーロス 氏曰以利合者迫窮禍患害和棄也以天屬者迫窮禍 終難之理急甚則必復緩故寒繼以解 患害相守也明夷之傷豈得不及於家平治家之道窮 極而不少恕則必垂睽離散故繼家人以睽睽者垂也 而不顧則必有所傷故晋後總以明夷夷者傷也〇間

おまる。大きなからな一周の海の大浦を一人一大 · 男系李子子 是一升而不已必因故受之以因因乎上者必及下故受之以 さらうがてらに一夕田人立 方はのちかみずいたかなれて 子人が日花の下打るを、田 我をおなすで 新かる 四名石座北林上北谷人 打法各样在共主状的对 四多一方信 冬春日湖本立 といって好分ではるのな 此状しれ 居住安殿和大型日本日 住我自己是在人口为自然 其をなったをなるると 将要三科供究を子を重及 人作的人士れれる東之 烟之升皆是故萃繼以升 小而成高大者聚而上也聚而上者謂之升如雲之 遇合然後會聚而成群故始繼以举举者聚也物之積 孟子若决江河之决同盖决共院防之謂也决主開遇 主合開則必合決則必遇故決繼以始始者遇也物相 之意也益繼以央高岸為谷之意也央者决也决義與 盆盆而不已則所損滿盈故必決損繼以益深谷為陵 繼以損損益盛衰若循環然損而不已天道復還故必 解者緩也寬緩則玩而不知懼其有所失也必矣故経

おかなまる 以かまる 信いるてならるに出て方 はなんえんなる比以人 从我私在必要去的· 多编起分大机环长此之下 サキロるてながぶあかろえ! 73年 | 井井道不可不華故受之以華華物者草若門故受之以 第日斯本亚 好艺花成了 風なくだけなうがあし 人工一面易 奏猶主座的 生まわけ入り後る不合注 まるはおないでを動止之故受之以民 七五年五子安井下五日 見かて水あるはくて水をです でるほと出お其はあく 廷二号初在在城中 男子器者莫若長子故受之以爱震者動也物不可以終 矣故升繼以困困乎上則必及於下而物之在下者莫 為熟易堅為柔故華繼以內門重語也宋廟祭祀用之 舊而潔然一 新馬乃可以食也故并繼以華將能變腥 升自下而上不能不用其办升而不已則力竭而困憊 次因也井文則鐵濁而不可食惟深而治之於以去其 如井有養道馬猶言困竭者就井取汲以養井所以 而震為長子則繼父而主杀者也故門繼以震震者動

渡る後於とないの以来 多方是既等的是否是 民者止也物不可以於止故受之以漸漸者進也進必有 我况尽法 於死太自然了如 女元はり出てに活出大は科 不再二九九九九人死六万都 第五天在民國在北海左一以民其者入也入而後說之故受之以免 助海的位業自然至三次 评战害家好的不占新 但我也以为外房以号极形 弓羽中かがち美 かななん 我以此事人之之一大也窮大者必失其居故受之以依依而无所容故受之 的是常的人民的民族人民人以解妹得其所歸者必大故受之以豐豐者 马花的公孙是人就 南多傳義補極人十二本 則止之可也故震繼以艮 以漸而不驟則其進鳥有不得其所歸者乎歸妹所以 繼以漸漸者進也謂漸乃進之方而非訓漸為進也進 艮者止也物不可以終止止極而動其動必以漸故艮 次漸也窮而无所歸則小進而得其所歸則必大如符 也動者出而用事之初也物不可以終動動極而當止

· 新安侯等等多以一行之故受之以小過有過物者必濟故受之以既濟物不 ふのかるあら あつばかにあ 完成的教作制造用者說也說而後散之故受之以海為者離也物不可以 あるななな時期一人子子! 好是 不降事名这然離故受之以節節而信之故受之以中子有其信者必 1497年位文作为设人人社会 有學傷竟事奏其一可窮也收受之以未濟終馬 す初帯しやるねでものせる 容的能異順以處之則雖在羈旅之中何所往而不能 **其義理之所歸者所成就必至大而不可量故歸外而** 所居之安旅所以次豐也旅者親寡之時非其順无所 繼以豐豊者大也修肆无節豐大而至於窮極則必失 入乎故旅繼以兵兵者入也人情相拒則怒相入則倪 入而後說之兒所以繼巽也

るるれず大方代元 住のはるかれるえばりゃ 光をからる 内心も人 花灰斑片熟莲人易元 おめない ガースおりればれる 出て世の万七大をんしい はいるめりをよれるな 列普首称人物 原用年底 問品将義補延一次十二天 所以次中字也有過物者必濟調能高於人而過之 了以此有其信即書所謂有其善言以此自負而居有 者制之於外乎者信之於中節得其道而上能信守之 其間而将有以合其情非若睽之和節所以次浜也節 之也自恃其信则其行必果不免小有過而失中小過 則下亦能信從之矣所謂節而信之也故節後繼以中 止矣物既離散則當以節止之受之以節謂有禮制乎 於離散而无所制若離散而无所制則逐放肆而不 浜者離也浜所謂離散盖民情未一之謂也物不可終 人之氣爱則結聚說則舒散說而後散之故兒繼以沒 可

心はこのかのまるは大か 笑なのれるでもよくです 石火一小块去一明的造品水色 是明子是是我如中記剛坤系比樂師要有親則樂動衆則要 死程以外西是 不於方代 中山龍の万報しなな人ち 于其下我的大化但君下没 明初日後かかれる田心は 首的女主生化灰小灵在四九 字界二報上地工歌力表 上班三子林文新下班生私 やなられずるしいたかけれ る作用で大きず行水が方式 おかみかいかり 五大いる 各以其類而言之非雜也於雜之中而有不雜者仔馬 之交生生不窮之所從出既濟則窮矣聖人以為物不 變此古有是言也殊不知易之雜却乃言其計畫及對 張南軒曰序卦所以言易道之常雜卦所以言易道之 雜主 中男一用穷矣多的我母於之处死亡亡的武方法也一多七 右下篇 之後則又乾坤也此之謂生生不窮之易也 可窮故受之以未濟終焉易六十四卦循環不已未濟 後可以濟天下故小過之後繼之以既濟既濟者次離

さーろはれなられるらた又 一任をかをすてやを空から 大豆からい我にある Bは後 方段已與放行我不好色脏 我言是按一天死五百百五十 いいかんちょうなばれかでニ たなるれ 目下 九上の九百本 おんでのはあるしいはら 「作品し去れるおめるを日 至大大日告年天五年多 臨 觀之義或與或求 おしなべ 念里春四年上中山中的外人 いれしせい西人からるめは 雅の民本の石名中 とれる 公元ガモモ や油りアクル 一而要者受古凶之未有定也如我的品品工工了 天下諸臣所比不惟為天下所比者祭而天下之得其 本義曰以我臨物曰與物來觀我曰求〇胡氏旦曰臨 化故曰求 卒伍者憂而為將即者亦憂盖樂者樂天下之將定於 觀以二剛爲四柔之主臨以剛正咸臨四柔有格君感 所比者亦樂師居中位而為一軍之卒伍所頼不惟為 上之義故曰與觀以剛正示法群下天下莫不仰而觀 胡氏旦日師比皆以一剛為五秦之主比居尊位而為

され 本役形山土をお本まして おすでる 存信丹起之気万上 · 英写你有其印与安定是你 塞对万山经化机械马又表达 到也最好好美 九两下見林常正室秋 成夫人以花花都多本放着 出中の心主なる事が七石珍 2000年也是电影电影而来其居家雜而者物始生故見未得位而利居 我的我不可以放了之具故不失其后蒙然而生故能二為家主而能治之使明 唐多·梅表推设 八十二年 為主共上一勝則止於坎險之外而光明故曰著坎陽 於上卦二陰之中而為主其下一陽則動於坎險之內 味良光明也○呉氏澄曰屯蒙皆二陽之卦屯九五見 本義也震遇次震動故見次除不行也蒙坎遇良坎絕 陷於除中一也見者陽在上卦之天而位顯雜者陽在 而固守故曰不失其居蒙九二雜於下卦二陰之中而 下卦之地而位幽 丰丰

得は見及我者おる系 ながちてきる まえしれるに 因しれし出きなりなって 表就是巴西宁如子宫一大部時也无安災也是不是限雷里的不有为五多的把手有仍使主方的易一次是于有所以上、大部時也不安災也是不是我看到那里的把手有仍使主 百年中華人立意 展起也民止也損益盛衰之始也我為一次等為一次中年江 上便在日子机全好的上出于 るなです。全生なのなる要素 **萃聚而升不來也讌輕而豫怠也** 為往降下為來不來謂升而不降也〇無一陽居下卦 具氏澄日萃以親之四往上為主而同類之三陰聚於 本義止健者時有適然无妄而災自外至〇蔡氏淵曰 下升以臨之三來初為主而同類之三除升於上升上 時動有慮外之失故无妄曰災 乃所謂災也〇息濟余氏曰止有於中之得故六畜曰 剛健者難畜當剛止之時故能畜莫非災也无妄之災

首都は母をなかれなせる

明人 等好為不会次多七年 監食也實无色也 **气引出运的未不为与福克图** 老院奉武不好不 はしかてまるならぬれなんと 在生命限化を支引者の流光故也。盡則修也中成中是領をある心は此一か言 問多時我補疑下十 之上為識界之主而不尊大故自小而怪像 本義白受米〇東坡蘇氏曰自二至五行以相煙為事 卦之下為豫樂之主而志滿足故自肆而怠 本義兄陰外見異陰内伏 色至於黄則易過故戒之 躁於食者也自初至四正不受汙安於无色者也○余 氏德新日食色人情所不免噬嗑日食而費曰无色盖 陟居上

於是其外的官司一亦通而用相遇也 上りとますいりとははなや 南京 東京大大十二大 西書也明夷珠也以名至玩在多看方出了人人的奏事都我一少 剥爛 也很反 古不是你本年的对生者既然自我生素死姓自常生中到成了月中 而明傷 徐氏幾日剥爛則陽窮於上復反則陽生於下 本義誅傷也〇蔡氏淵曰晋離在上而明者夷離在下 **价防故理人不畏多難而畏無難也** 故其象曰君子以您晦入安息以偷情為安故曰君子 以振民育德〇項氏曰隨以無故而偷安盡以有故而 本義随前無故盡後當餘〇東坡蘇氏曰以隨時為安

母性 小社人之外未受新也 るののなえれないがメウシ中 在五人月房日宫内色方为成地也恒久也 上班、安京第二个政府政任 次半茶の分品即西北字孙已 戸お持きかめはさらる 素多傷の伴山十七大的直白 お久旦无妇子成四成、七百 アレースあきかべ 関かいので、まうのまにおれ! 七の主な子不野ら添わ で、七大七の立不明与 きちがればるきかや 我至至老,说了下在今年成 浜郡也節止也 ノニイニオまして 遇為反對則遇為相抵而不通之象矣異之上文主塞 俞琰氏曰成之速感應之道也婚姻之道不可以不速 **外则偕光** 速則及時恒之久悠遠之道也夫婦之道不可以不久 坎水之上源而井之坎乃出其上盖塞而復通者也故 本我因剛柔相遇而刚見操也〇項氏安世曰以通與 謂之通兒之下文主塞坎水之下流而因之坎適在其 下正遇其塞所以困也 |主元は我一ちな海のが大好战一方不止一万段記到度有此方元 マ不知や

8元人在日前在完好多解後也特勢寬緩塞難也 我情去 發展你男子 联外也家人内也 めかや 方字座潘思不斯犯孩~室 自力推考此情一犯语品 而每失於緩蹇見除而止故為難 蔡氏淵曰風散水故鄰澤防水故止 () 具氏澄曰與九 具氏澄曰解九二坎陷在内震則出險而動於外內 方蹇難也 之上為澤所節止 徐氏幾日睽者疎而外家人親而內〇具氏澄曰揆六 已解緣也塞九五坎陷在外艮則見險而止於內外 } [, 二坎水在異風之下為風所離散節九五坎水在兒澤)時勢急難難既解故安於快樂

不是為不完在不完在一般而欲其止慮前陽之不及逃故不欲六二之進而欲其退也的我不完在了不養一大壮則止逃則退也應後陽之特其此故不欲九四之進也不知其其也多行望 るい己一的五十上于万生一打 みらばする鬼たがあなるは 否泰及其類也養養的好可由一一代表我上面一個一方的一分的手令。 唐老僧恭推放 十上来 盛則君子不可以不知止也逃之時陰浸長而陽浸消 本義止謂不進○俞琰氏曰大壮之特於既衰而陽既 則君子不可以不知退也 泰小往大來內防而外陰內君子而外小人故曰反共 徐氏幾日否大住小來內陰而外陽內小人而外君子 類 五在外為主家人六二在内為主 三六

或子中をよる四日の日日近 お裏がきなどよりなかる変 · 一年一年一大大小門取新也 ひするおおしんまるある 宣书: 西京多学小過過也中于則信而无過也 知至多大死的子石一 何多及題或自己無大有我也愛而此同人 比看大女艺 和中世白日农丛 不由中共知色云 豐多故也親寡旅也 月多付我相戴一个二天 項氏安世日華以火鎔金故為去故門以木鎖火故為 弱乎我是故謂之歌在下則我同乎人是故謂之 項氏安世日大有同人皆以離之中久為主在上則 俞琰氏曰豐之時富盛而相親者我故多故羈旅之 取新 親也愛而事 - 1144

为至美元芳三好公死 需不進也訟不親也前止於坎下故不進乾達坎而去故可其至安在连守 需不進也訟不親也前止於坎下故不進乾達坎而去故 古中学 不规 →張以和說而職剛强欲進而逐其進產能制則也小畜疾也優不處也止宴不敢在也當衆陽欲止而不能 離上而次下也以后作九一日五卷日之之 本義不處行進之義〇胡氏一桂曰家一陰小我小故 俞琰氏曰需訟皆以乾而言需之乾在坎下有所待而 本義火炎上水潤下 止而不進不處行狼之義行獲則所謂進之貌也 貧窮而無上下之交故相親者寡 九八月なけいるなるなる とび付後 先及日とちて本本 でなやれたちを見るしちは おすれておさまらりなんれた! R友新華八字司第四名 大過顛也不正順卷正也 女只是死少在此時日人 蔡氏 也是有名言不完化多是既濟定也未濟男之窮也 一座文化、反之起于此,5六人 は雪からならればばいる かいのかかちましょ大きずれ めのうる大らなしのアムナ人 好於我食只免性存去不知的 中全な強しあせ 俞琰氏曰既濟六爻皆當位故定未濟三陽皆失位故 雅卦例皆及對叶韻為序今以其例改正思謂察氏先 俞琰氏曰順與大過相及初上者本末之地以陽告之 大過後頤蘇氏先順後大過此兩句當從蘇氏其餘從 則正以除居之則類〇蔡氏淵曰自此以下有亂簡按 飲相遠相達則不相待矣此其為相及也 行故不進訟之乾在坎上相違而行故不親有所待不

至新男子等等限也聖人於一陰之始惟欲陰之不進於五陽之光不欲陽四年之事於天天殿重 始遇也柔遇刚也央决也剛决柔也君子道長小人道憂 改全是白上午 孙终人公国系统 アナカリランでかれると、軽き はあくるへ 本上男子天山亦作了富方笔 用多件并相表 をかもちゃれるれるだら ヌナショのハイトのまける! 歸妹女之終也漸女歸待男行也 為男之窮〇既濟六二為主以陰居陰得其定位而上 終矣漸者將歸之時待男子之親迎而後行也〇歸妹 俞琰氏曰歸妹者女子既歸之後也既得所歸則女道 巴結好之詞故日於漸女待男行則未嫁之詞也 **陰失其正位而同類二陽亦皆失其正位故曰男之窮** 下五爻亦皆得其定位故曰定未濟九二為主以陽居

人がん方はなるします ももままたしきること のなる祭で教かしるな 周初事及前廷一人十二人 袁猶陰陽之消長君子長則小人愛小人盖以遭遇為 喜以决去爲愛也○按雜卦以乾爲首而然之以夬者 桑也君子陽類也小人陰類也君子之與小人相為盛 坤以剛柔相交而遇坎難故有師以主坎於下有比以 秦至損益盛衰之始凡十二卦為天地間一小世運乾 夬以五陽决一除惟决去一陰則復為純乾矣〇李氏 俞琰氏曰姑之時一陰在下而與衆剛相遇故曰桑遇 之制器尚象皆然于夬〇葉良珮曰雜卦傳自乾剛坤 曰天下之事不至於決則不通故雜卦之次序與十卦 剛也倒轉而為夬則一陰在上為衆剛所决故曰剛决

おから 大学 大学 一丁二 盛衰復因之以生非一小世運而何大畜以止而能大 畜此本於民止來无妄以起而有災此本於復起來故 而不已必損故為衰之始自乾坤始交以來漸向治而 雖家雜而已則能者而明之震起也帝出千震也艮止 道馬故身見而天下不失其居家有師之道馬故衆陰 升由无妄而升於上皆艮止覆起之所成也無天道下 主坎於上師雖有憂比則成樂而險難平矣也有君之 君子慎動大畜六久俱變則為升萃由大畜而聚於下 也萬物之所成終而成始也損極而益來盛之始也益 濟而光明故能無益不自尊重豫雷出地上當泰壮之

引力學長前走一八十二人 資無色也食色性也需以飲食致訟故噬嗑亦以食而 外為悅人之悅於物也亦猶口之悅於味也異以一陰 時悅豫之極故自肆而怠此又盛衰之始也噬嗑食也 然人於中矣故曰兒見而異伏也隨以無故而偷安益 用獄好色人之所欲也故以無色戒之兒以一陰見於 成剥復又一 復終則有始天行也自大畜无妄至此凡歷十二卦而 入於内為伏人之感物而入之也亦循好好色也驗疑 剥而來井通者明夷之及也因過者晋之及也自章首 以有故而修餘斯固剥復之所由來也隨則剥而盡則 一小世運也背畫也由復而來明夷誅也由

應之常莫如夫婦浜離節止一剛一柔柔乗剛而入之 故離剛復柔而陷焉故止解緩蹇難內外皆剛以水為 至此凡三十卦晉明夷離在內外體并因坎在內外體 雜也咸速也天下相感之速莫如男女恒久也天下相 亦坎離之象下文又以咸恒相繼而言正與序卦分上 體終外家人內內外皆乘以火為體解睽似漁蹇家人 似節一離一止一緩一難一外一内正否泰之相尋而 下篇之義合雜卦雖雜而上經首末與下經之首未皆 相及故次之曰否泰及其類也自晋畫明誅至此凡歷 十有二卦而見否泰盖又一小世運也大壯則止泰之 TO THE TAX りかまるとうと、 為日為火與天同類故炎上坎為月為水與地同類故 無後不成需不進訟不親大過颠皆否之類也然發高 潤下若離在上體坎在下體合為一卦則成否美小畜 孚信豐自泰來與中子同類旅自否來與小過同類離 皆泰之類也小遇陰多於陽故有過中孚陽多於陰故 大遇皆有亨我一變則為泰夫順養正既濟定皆泰之 類也逃則退否之類也大有衆同人親華去故門取新 類也歸妹自奉來未濟自否來故曰女之終男之躬言 **邱妹泰而朱濟杏也始遇也柔遇剛也遇雖非正而漸** 進則以正待男面行非正面何表決也則决於

周易傳養 為其能傾否以成泰也問元公曰聖人立人極盖謂其斯聖人傾否成泰之極功也張獻公曰易為君子謀盖 能察督天也也合二子之言而許味之則大易之妙用 思過半夫 决則剛長乃終後於乾毛故口君子道長小人道憂 2十二終